

# とびだせ！ 市民レポーター

～甲府市内の“まち歩き”～



市文化振興指導員の林陽一郎さんと向町・和戸町を訪ねました。

どちらもぶどうの栽培が盛んで、ぶどう畑がいっぱい！ぶどう畑や住宅地が碁盤の目のように区切られているところも。これは古代の土地区画制度“条里制”による地割なのだから。古いまちであることが窺えます。

■市民レポーター 今村 晃子

① 向町の盛岩寺から出発。お寺に伝わる“大般若600巻”、また、地域で行われる“百万遍”などのお話を伺いました。本堂の隣には、地域文庫が併設されています。



◀“大般若600巻”の一部。江戸時代中期に奉納されたもので、1箱に100巻納められています。毎年3月15日に転読が行われるそうです。



▶ 杉山仲女之碑。杉山なかさんは向町出身の女性で、明治29年、地方病（日本住血吸虫病・症）で亡くなりました（享年49歳）。当時はまだ、地方病の原因がわからず、杉山さんの遺言で医師による遺体解剖が盛岩寺境内で行われたそうです。その結果、肝臓などに寄生虫の卵が発見され、地方病の原因が解明されるきっかけに。その顕徳碑です。



◀ 市内で数少ない“百万遍”で使用される数珠。直径約3m！長年、使用されているので、数珠はびびか。普段はお寺に保管されています。



◆ 向町の百万遍…家内安全や家業繁栄などを祈願し、“南無阿弥陀仏”をくり返し唱えながら大数珠を廻します。毎年8月19日に盛岩寺入口近くにある“南無阿弥陀佛”の石碑の前で行われます。※碑は甲府バイパス建設に伴い、現在地に（写真：『甲府市史』より転載）

② 向町の鎮守、八幡神社。昔、笛吹川の流れが変わり、石和郷\*が分断された後、石和八幡宮（笛吹市石和町）の別宮として創建されたそうです。水害に遭っても本殿は流出しなかったため、浮島八幡宮とも。\*現在の笛吹市石和町一帯と推定される



④ 藤建神社。『甲斐国志』には“白山権現”の名で、「藤建の森」というところへ神幸ありなどと記載されています。現在も鳥居の額束には“白山社”と。

▶ 神社拝殿の背後の建物。「甲運小学校の“奉安殿”が移設されたんですよ」と林さん。奉安殿は御真影と教育勅語をおさめていた建物で、戦前・戦中に、各学校に建てられていたそうです。



⑤ 東勝寺にある大きな石灯籠は、増上寺（東京都港区）の徳川家墓所から移設されたものです。

こちらは6代将軍・家宣公（元甲府藩主）のもの。向かいには9代・家重公の灯籠があります。

また、灯籠の近くには大蔵経を誦した記念の“誦誦塔”も。



⑥ 五本杉稲荷大明神。社の隣には祠が3基。文化（江戸時代後期）、大正、昭和の銘があります。

二の宮・美和神社（笛吹市御坂町）から三の宮・玉諸神社（国玉町）への“御幸”

道沿いにあり、玉諸神社や“御幸”さんと関連があった場所のようです。昔は、杉が5本あったのかな…？

\*一の宮・浅間神社（笛吹市一宮町）、美和神社、玉諸神社がそろって三社神社（甲斐市竜王）まで渡御し、川除（水防）祈願の儀式を行う



③ 在原塚（琴塚）。平安時代の歌人・在原滋春（業平の次男）が旅の途中に亡くなり、そのお墓だといわれています。宝篋印塔・五輪塔が残されています。

※この一帯は古墳が多く、この辺りでは珍しい前方後円形の“琵琶塚古墳”もあったそうです



《地名の由来》

- ◆ 向…石和郷に対して、川の向こうの意味
- ◆ 和戸…この一帯にあったという“表門郷”の地名が転訛したといわれる（うわと→わど）
- ★ 松原…甲州街道沿いに松並木があったことから（現在は交差点名に）
- ★ 城東通り沿いに二宮尊徳（金次郎）の像が！！なぜ、この場所に…？（横根町）

★市民レポーターとは…市民の立場からわかりやすく甲府市のことを伝えていこうと、昭和58年から採用している制度で、現在は12代目のレポーター。市からのお知らせや話題を広報誌、市広報ラジオ番組（「甲府 Shiny Town」YBSラジオ、土曜日午前10時～）、市ホームページで紹介